

目次

まえがきⅠ vii

まえがきⅡ ix

凡例 xvi

第一部 語彙集

(一) 衣類

- ① 衣服 3
- ② 織物(布・糸) 8
- ③ 着る 8
- ④ 履き物 9
- ⑤ 持ち物 11

(二) 食物

- ① 主食 14
- ② お供え物 17
- ③ 原料穀物 18
- ④ 料理・間食・漬物 19
- ⑤ 豆類 24
- ⑥ 野菜・果物 26
- ⑦ 魚・肉類 30
- ⑧ 菓子 36
- ⑨ 飲み物 40
- ⑩ 調理 41
- ⑪ 味(調味料) 42

(三) 住居・道具

- ① 家屋 46
- ② 家具・道具 49
- ③ 器具 57
- ④ 食器・器物 57
- ⑤ 文房具・化粧品 59
- ⑥ 燃料 60

(四) 身体

- ① 身体 63
- ② 声 67
- ③ 身体障害 67
- ④ 健康・病氣・睡眠・葉 68
- ⑤ 生理・その他 73

(五) 行為・行動・動作 75

(六) 精神・感情

- ① 感覚 89
- ② 喜怒哀楽 90
- ③ 気分・情緒 91
- ④ 対人感情 93
- ⑤ けんか言葉 94

(七) 習俗・宗教・縁起

- ① 習俗 97
- ② 宗教 101
- ③ 縁起 110

(八) 性向

一・人物 マイナス評価

- ① A 仕事をしない人 116
- B 仕事ができない人 117
- ② 根性悪・悪いことをする人 122
- ③ 落ち着かない人・お調子者 125
- ④ 物品・金に執着する人 127
- ⑤ 人の和を乱す自分勝手な人 129
- ⑥ 評価を気にして行動する人・お世辞を言う人 130
- ⑦ 無口な人・愛想のない人 132
- ⑧ 異性に関心の強い人 132
- ⑨ のん気者 133
- ⑩ 高慢な人 133
- ⑪ よく怒る人 134
- ⑫ 腕白・いたずらな子 134
- ⑬ むき出しの人 135
- ⑭ 信用できない人 135
- ⑮ よくしゃべる人 136
- ⑯ 下品な人 136
- ⑰ 風采のあがない人 137
- ⑱ 貧乏くさい人 137
- ⑲ よく泣く人・子 137
- ⑳ 大酒飲み 138
- ㉑ 長居をする人 138
- ㉒ しつこい人 138
- ㉓ 遠慮なく言う人 139

- ㉔ 正直すぎる人 139
- ㉕ 世話のかかる人 140
- ㉖ だらしない人 140
- ㉗ とるに足らない人 140
- ㉘ その他一例のもの 140

二・人物 プラス評価

- ① 仕事ができる人 143
- ② つきあいやすい人 145
- ③ 細心家 146
- ④ 人格者 147
- ⑤ 外見に気を遣う人 147
- ⑥ 凝り性な人 148
- ⑦ 欲のない人 148
- ⑧ すばやい人 149
- ⑨ 善人 150
- ⑩ よく対人関係に気を遣う人 150
- ⑪ 明るくおどける人 151
- ⑫ よく笑う人 151
- ⑬ よく動く人 152
- ⑭ お金に関してきちんとしている人 152
- ⑮ 上品な人 152
- ⑯ その他一例のもの 152

三・性向語彙A表 153

(九) 親族

- ① 個人親族語 202
- ② 家・家族親族語 221
- ③ 家の系譜親族語 221
- ④ 個人・家親族語 221
- ⑤ 家・家族親族内地位親族語 222
- ⑥ 親族全体語 224

(一〇) 人倫

- ① 老幼・男女 226
- ② 客・なじみ 227
- ③ 社会階層 228
- ④ 雇用関係 229
- ⑤ 身上 234

(一一) 職業・職人

- ① 物売り 238
- ② 店 (縁日も含む) 243
- ③ 仕事 250
- ④ 花街 260
- ⑤ 生産 262
- ⑥ 経済 263
- ⑦ 家事 267
- ⑧ 回収 268

⑨反社会的職業 268

(二二) 交際・作法・言語

①交際・作法 271 ②交通 275 ③言語 276 ④言語行動 276

(二三) 存在・状態

①在・不在 280 ②容易・必然 281 ③特異 281 ④適・不適 282 ⑤調和・不調和 284 ⑥新旧 286 ⑦乾湿 286
⑧美醜 287 ⑨懸念の有無 288 ⑩可能・不可能 288 ⑪徹底・不徹底 289 ⑫その他 289

(二四) 土地・地名

①土地 296 ②地名 296 ③その他 298

(二五) 自然・植物

①天体 300 ②気象 300 ③気温 307 ④植物(食用を除く) 307 ⑤石 308 ⑥色彩 309

(二六) 動物

①鳥獸(食用を除く) 311 ②魚(食用を除く) 312 ③は虫類・両生類 312 ④虫 313 ⑤その他 315

(二七) 時間・方向

①時間・時期 318 ②方向・位置 320

(二八) 順序・計量・形状

①順序・計量 323 ②大小・多少 326 ③形状 328

(二九) 幼児語・育児語

①身体 332 ②生理現象・病気等 333 ③衣服・身に着ける物等 333 ④食物 334 ⑤動物 335 ⑥植物 337
⑦自然現象 337 ⑧動作 337 ⑨状態 341 ⑩人 342 ⑪あやし言葉 343 ⑫掛け声 343 ⑬唄 344 ⑭その他 344

(三〇) 子供の世界

①おもちゃ 347 ②遊び 351 ③おやつ 356

第二部 表現集

(三一) 待遇表現

①人称代名詞 368 ②尊敬法 376 ③謙讓法 378 ④丁寧法 378 ⑤文末詞 379 ⑥接辞 381

(三二) あいさし表現

①外出 385 ②家人の外出 385 ③帰宅 386 ④家人の帰宅 386 ⑤食事 386 ⑥就寝 387 ⑦時刻 388 ⑧年末 388
⑨年始 389 ⑩時候 389 ⑪訪問 391 ⑫訪問先からの辞去 392 ⑬来客 393 ⑭来客の辞去 394 ⑮授受 395

(三三) 命令表現

- ① 命令 406 ② 禁止 412 ③ 勧誘 414
- ⑬ 返却 396 ⑭ 陳謝 397 ⑮ 御祝 398
- ⑯ 他所での出会い 401 ⑰ 別れ 402 ⑱ 御礼 398 ⑲ 御見舞 398
- ⑳ 両者の付き合い 402 ㉑ 順番 403 ㉒ 安否 399 ㉓ 慰労 400
- ㉔ 断り 400

第三部 補遺

(二四) 補遺① (品詞・慣用句等)

- ① 名詞 418 ② 動詞・補助動詞 418 ③ 形容動詞 419 ④ 副詞 419 ⑤ 接続詞 420 ⑥ 感動詞 421 ⑦ 助詞 422
- ⑧ 助動詞 423 ⑨ 接頭辞 423 ⑩ 接尾辞 423 ⑪ 連語 424 ⑫ 慣用句 426 ⑬ 決まり文句 427

(二五) 補遺② (唄)

431

まとめ 440

参考文献 442

あとがき 453

正誤表 454

索引 492

まえがき I

筆者は先に、『明治三〇年代生まれ話者による 町家の京言葉 付 近世後期上方語の待遇表現』(武蔵野書院・二〇〇六年)を上梓した。——この書を以後「前著」と呼ぶ。

本書を前著の続編と位置づける。冒頭にあたって、まず幾点か説明を加えておきたい。

○ 用字を考える場合は、記号「」を用いる。まずはじめに「京言葉」「京ことば」について考えておきたい。辞書的には「京言葉」が多いが、現在その他出版されているものにおいて「京ことば」が圧倒的に多い。筆者は、榎垣実氏『京言葉』(高桐書院・一九四六年)の流れを汲むものとして、前著で「京言葉」とした。本書においてもその立場をとる。

○ 前著と本書とに一貫する記述の特色は、明治三〇年代生まれ京都市在住の話者四人を被調査者として固定し、足かけ五年かけて得られたデータのみをベースにしているところにある。「京都の町の人の優雅な日常の言葉を後に伝えてほしい」という被調査者の希望をできうる限り尊重した記述とした。

○ 本書において「京言葉」を収録するにあたり、「俚言」と考えられる語だけを恣意的に抜き出して記述するという立場をとらない。前提として、「方言」を広く体系的に捉える立場が大切であると考えている。

○ 本書においては、「京都の日常の町の言葉」を捉えるという観点で語彙を扱っていく。そのため、「タヌキマメ(狸豆)」「ケンナイド(験無人)」のように通用の範囲が狭い語から、「アマミス(雨水)」「ホガラカ(朗らか)」等、「共通語」と言えるような通用の範囲が広い語までを、記述の対象としている。方針として個々のテーマを元にこれら

34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
ツツポ	ギ チヨイチヨイ イキ	コ チヨイチヨイ	タチツケ タツツケ	ダキハバ	ソナナリ	ステテコ	ズッキン	スソイキ スソヨケ	ジンベ ジンベサン	ジュンレー
筒つぽ	い着 ちよいちよ	ちよいちよ い行き	裁着	抱幅			頭巾	裾除	甚平	
名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞
筒袖の着物。男の子が着る。女の子は、元禄袖やなぎなた(薙刀)袖になる前に着ることがあった。	ちよつとした外出の時に着る着物。	袖なしの羽織。多くは綿を入れたもの。「チャンコ」「チャンチャン」とも。	労働着の一つ。もんべのようなもの。もんべの足首にはゴムが入っているが、タチツケの足首は、くくる。早くから田舎の労働着。今、相撲の呼び出しの人が履いているもの。もんべの足首にゴムが入っているとは限らないと言う人も。	着物の身幅。	男子用の下着の一種。膝の下まであるズボンの下穿き。	人の普段着。常着。「ソナナリ オイキヤスナ」「ソナナリデ ヨロシオスガナ」。	ずきん(頭巾)。「ズッキン」の訛語。	婦人の衣服の一つ。「ケダシ」(蹴出)に同じ。(加注)もと染め模様の布に裏をつけて作り、腰から足にかけて、腰巻の上に重ねて巻きつけて着用するもの。上着の裾が汚れたり破れたりすることや、足が現れることを防いだ下着。	夏の袖なし。紹やちりめん。子供と男子成人のもの。	着物の身巾を足す布。子供の着物に(三つ身まで)。大人では常の長襦袢くらい。「ジュンレーオ イレル」「コレ ジュンレーニ シトコ」。

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
シャツポ シャッポン	オジバン オジュバン	コンナリ	コクモチ コクモツ	コーズキ	ケダシ	カルサン	カラゲ	カタゴロモ	オモジ	オフク	オヒトエ ヒトエモン
	襦袢 お襦袢		石持		蹴出		絡げ	肩衣	お文字	御服	お単衣 単衣もん
名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞	名詞
帽子。	襦袢。男子女子共に着た。シャツがなかった。「オジバン」が一般的。「オジュバン」とはあまり言わない。「ジュバン」は田舎の人が言っていた。	自分の普段着。「コンナリ イキマスワ」「モー コンナリデイク」。人の普段着は「ソナナリ」。「アンタソナナリデエーワ」。	紋を入れるところを白抜きにして染めたもの。	おむつ。襦袢。	婦人の衣服の一つ。明治時代以降は、腰巻そのものを呼ぶ。裾よけ。	袴の一種。袴のたちつけ(たつつけ)の上品なもの。伊賀袴の系統で、京言葉ではないと言う人も。足首は開いていて狭い。ちよつとまち(襠)がある。北桑田郡の人は天領といって、「カルサン」をはいて御所へ行つた(Cさんは知らない)。	着物を背丈に合わせるために、帯の下辺りで紐を使ってゆとりを作る部分。	門徒の肩掛けのけさ様のもの。常にはあまり使わない語。法事でお施主になる人が着た。	帯。「オミオビ」は聞いたことがある。「オビ」が普通。	他の人の服。	単衣物。